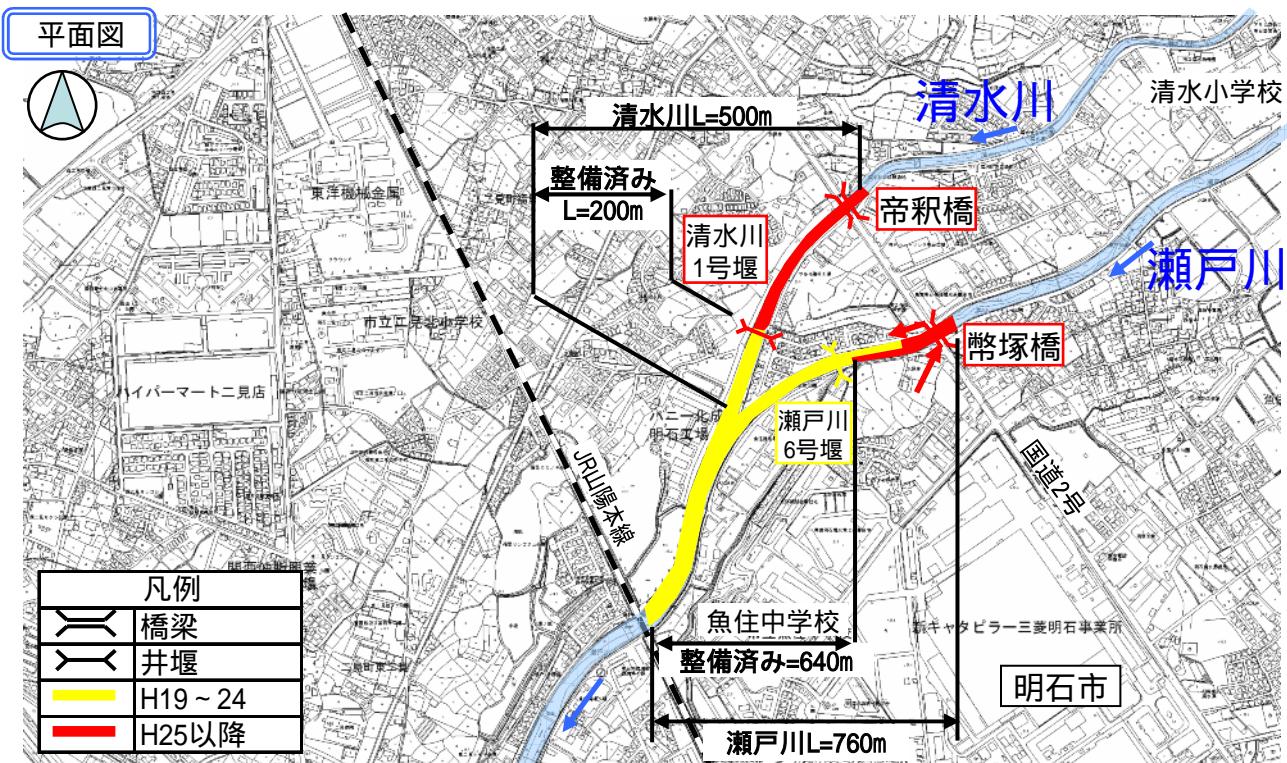


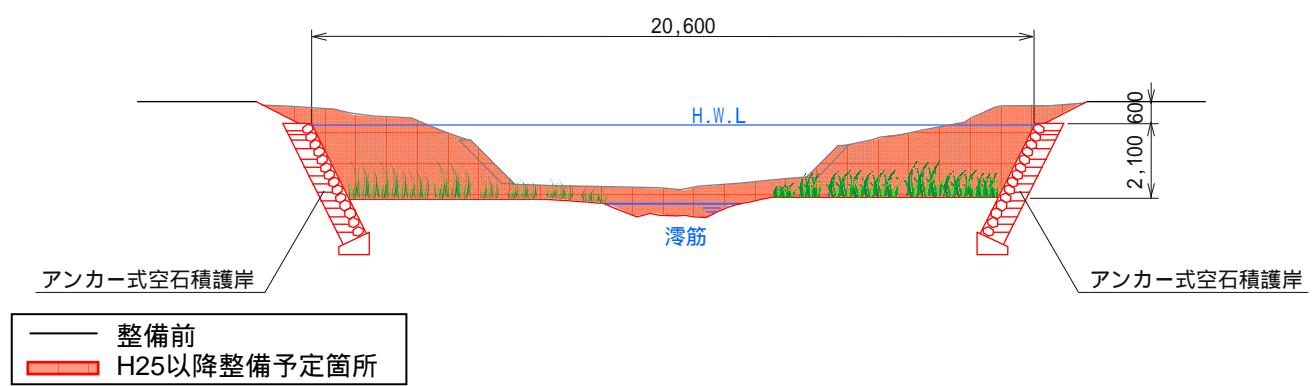
未整備区間現況(瀬戸川)



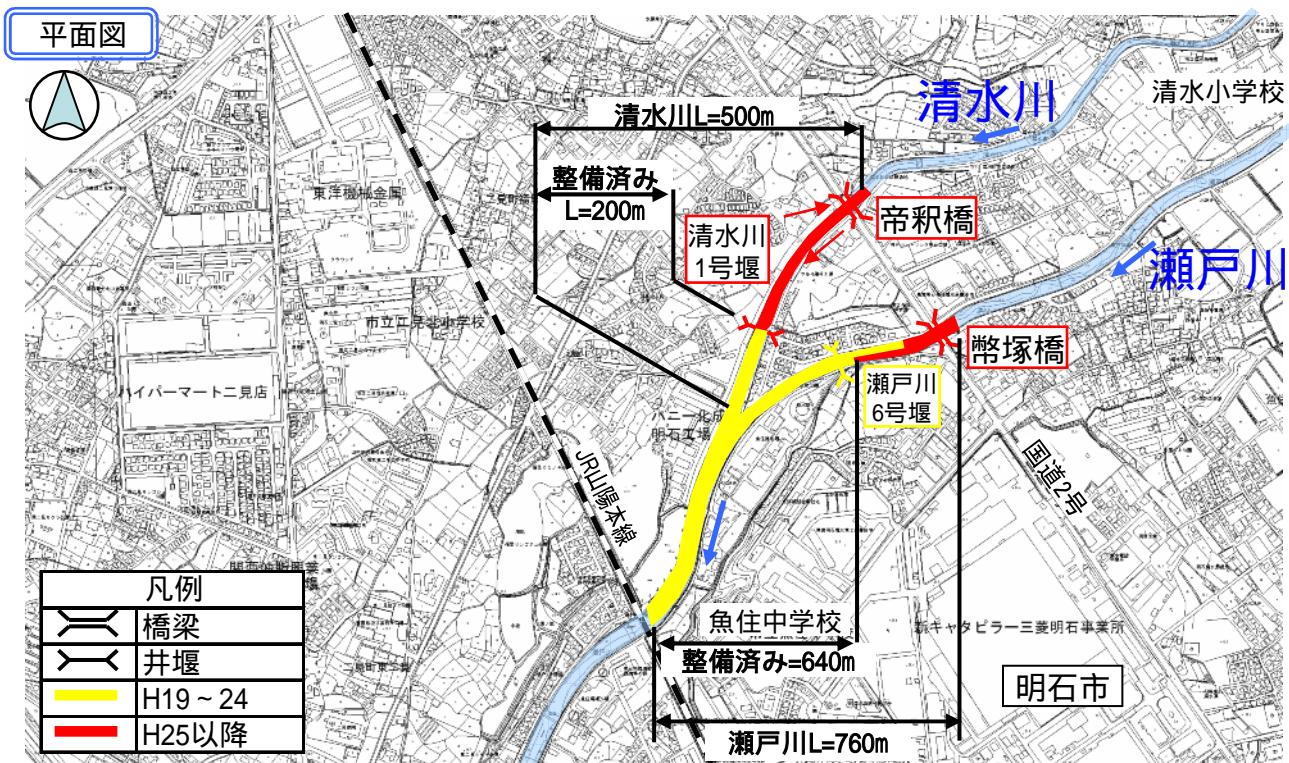
瀬戸川(幣塚橋下流)



瀬戸川(幣塚橋)



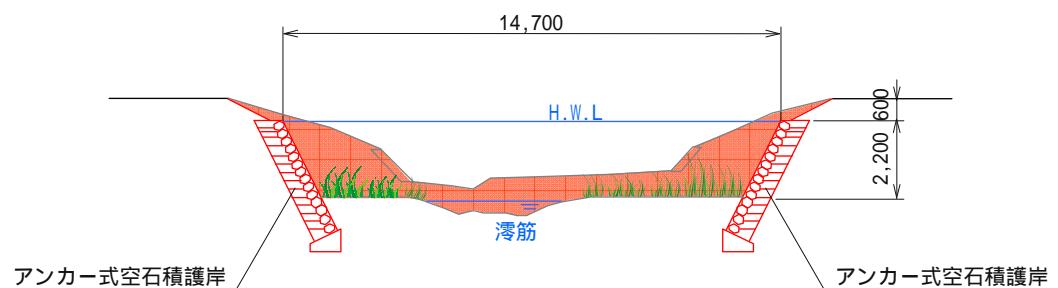
未整備区間現況(清水川)



清水川(帝釈橋下流)



清水川(帝釈橋)



——	整備前
■	H25以降整備予定箇所

1. 実施工程表

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
瀬戸川	用地買収	前回評価時点	現計画										
	河道改修 (掘削・護岸)	前回評価時点	現計画			床止工				床止工			
	橋梁		幣塚橋				幣塚橋						
清水川	用地買収	前回評価時点	現計画										
	河道改修 (掘削・護岸)					床止工							床止工
	橋梁		帝釈橋								帝釈橋		
	井堰		1号井堰				1号井堰						

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化

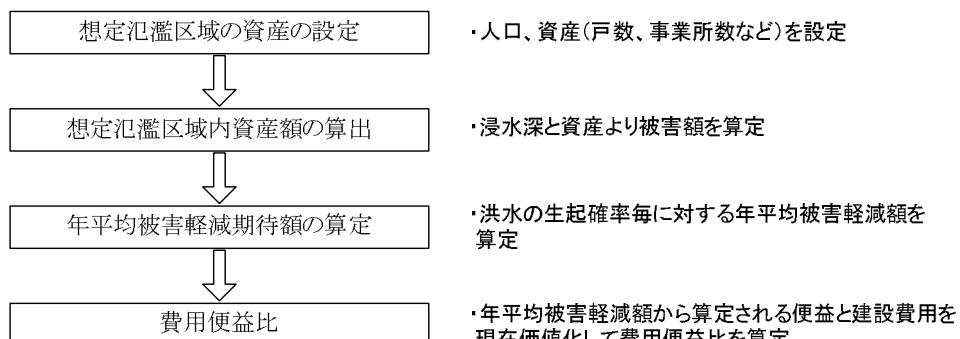
被害額 = 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業償却資産、農漁家償却資産等)

+ 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

治水経済調査マニュアル(案)国土交通省河川局 平成17年4月

<凡例>
■ 前回評価時点
■ 現計画



費用便益比(B/C)算出根拠

便益(B)		費用(C)			B/C
総便益費 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
4,614	計画規模の降雨に対して ・浸戸戸数236戸の解消 ・浸水面積20.6haの解消	494	445	49	9.3

河川整備計画の整備区間を対象

(2) 費用対効果に含まれない効果

国道2号等の交通途絶の解消

避難所(魚住中学校)周辺の浸水被害の解消

井堰改築にあたっては、魚道を設置し、生物の移動が可能となるように配慮

瀬戸川と清水川の合流点に階段を設け、親水性に配慮した河川改修を実施

河川事業の効果

対象事業：二級河川瀬戸川 総合流域防災事業

(1) 費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用 </div>

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
社会経済活動等の安定	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の解消	国道2号等の交通途絶の解消
	医療施設や防災拠点施設など重要施設被害等の解消	避難所(魚住中学校)周辺の浸水被害の解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	瀬戸川と清水川の両堰改築にあたっては、魚道を設置し、生物の移動が可能となるようにする
	親水空間の整備	瀬戸川と清水川の合流点に階段を設け、親水性に配慮した河川改修を行っている。

印は当該事業効果の主な項目